

横浜市感染症発生動向調査報告 6月

《今月のトピックス》

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱の報告数の多い状態が続いています。
- 手足口病、ヘルパンギーナの報告数が増加傾向にあります。

◇ 全数把握の対象

〈6月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	6件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
A型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	4件
レジオネラ症	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	12件
アメーバ赤痢	6件	梅毒	12件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件	風しん	1件

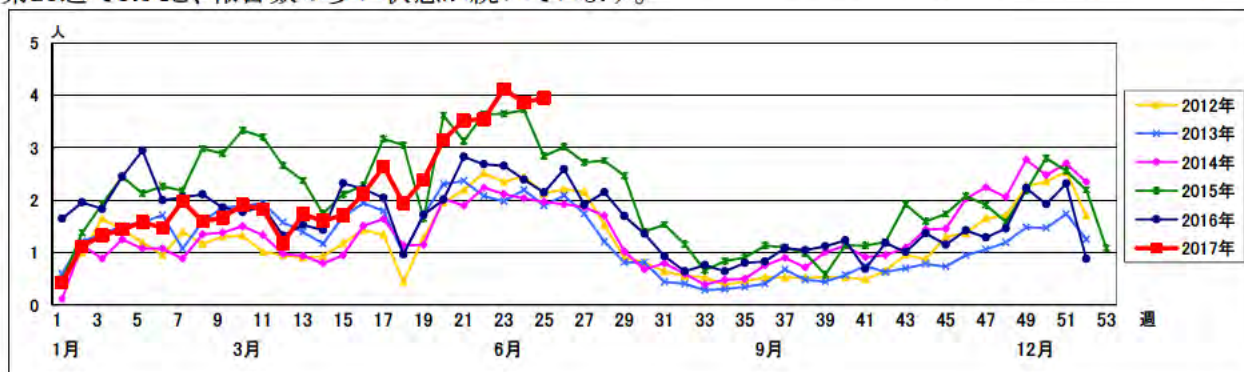
- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が4件、O6の報告が1件、O26の報告が1件ありました。2件は無症状病原体保有者でした。
- A型肝炎: Ia型の報告が1件あり、フィリピンでの経口感染と推定されています。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が5件ありました。感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢: 4件の腸管アメーバ症、1件の腸管外アメーバ症、1件の腸管および腸管外アメーバ症の報告がありました。感染経路は異性間性的接触が2件(うち1件は国内、1件はシンガポール)、インドでの経口感染が1件、感染経路等不明が3件でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 8件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群が1件報告され、感染経路等不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が2件、無症状病原体保有者の報告が2件でした。いずれも性的接触で、同性間が2件、異性間が1件、詳細不明が1件でした。男性3件、女性1件でした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 12件の報告があり、うち1件の小児についてはワクチン接種歴が確認されました。11件(30~70歳代)については2件のみワクチン接種歴が確認されましたが、6件はワクチン接種歴がなく、3件はワクチン接種歴不明でした。
- 梅毒: 12件の報告(無症状病原体保有者4件、早期顕症梅毒I期2件、早期顕症梅毒II期6件)がありました。いずれも国内での感染が推定され、感染経路は、異性間性的接触が8件、同性間性的接触が3件、感染経路不明が1件でした。男性8件、女性4件でした。
- 風しん: 20歳代女性の検査診断例の報告が1件あり、詳細は調査中です。ワクチン接種歴は不明です。

報告週対応表

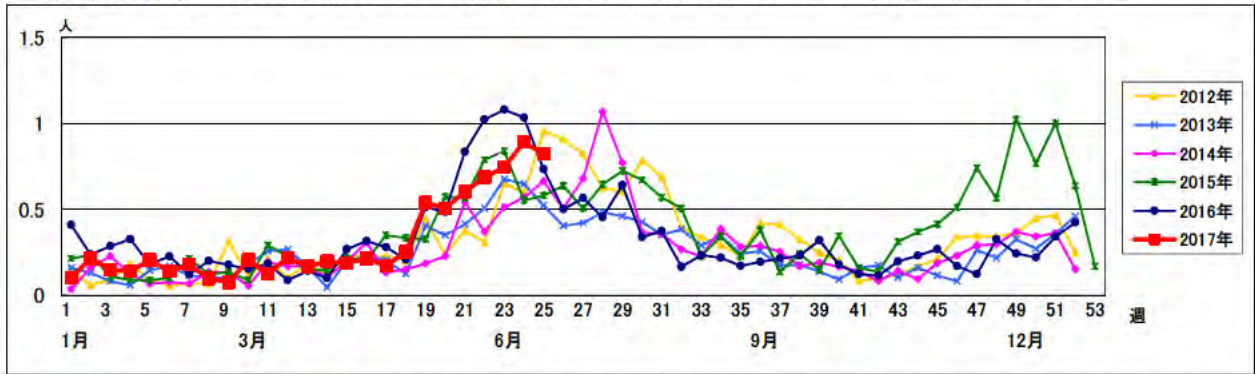
第21週	5月22日~5月28日
第22週	5月29日~6月4日
第23週	6月5日~6月11日
第24週	6月12日~6月18日
第25週	6月19日~6月25日

◇ 定点把握の対象

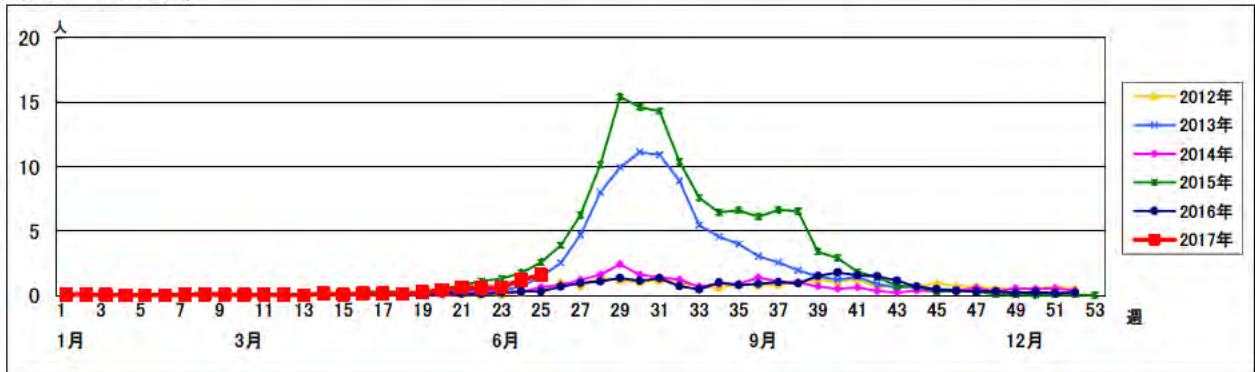
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第23週の定点あたり4.11をピークとし、第25週で3.94と、報告数の多い状態が続いています。



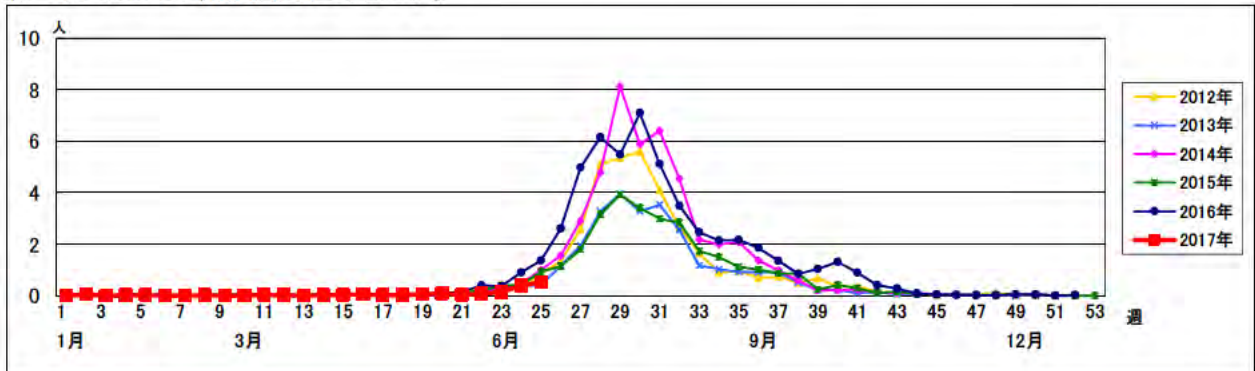
2 咽頭結膜熱:第24週で定点あたり0.89、第25週で0.82と、報告数の多い状態が続いています。



3 手足口病:第19週で定点あたり0.24、第20週で0.42と増加を始め、第24週で1.21、第25週で1.58と増加傾向にあります。



4 ヘルパンギーナ:第22週まで定点あたり0.1以下で推移していましたが、第23週で0.13、第24週で0.38、第25週で0.53と増加傾向にあります。



5 性感染症(5月)

性器クラミジア感染症	男性:32件	女性:26件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 3件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性: 6件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:14件	女性:1件

6 基幹定点週報

	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.25	0.00	1.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.25	0.25	0.33	0.50

7 基幹定点月報(5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

6月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点45件、内科定点9件、眼科定点3件、基幹定点9件で、定点外医療機関からは6件でした。

7月7日現在、ウイルス分離10株と各種ウイルス遺伝子13件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(6月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	肺 炎	ア デ ノ 感 染 症 *2	胃 腸 炎	手 足 口 病 *1	流 行 性 耳 下 腺 炎 *1	発 熱
アデノ 1型	1			1				
アデノ 2型	1			2				
アデノ 5型				1				
アデノ 6型	1							
アデノ 31型					1			
アデノ 型未同定	1							
インフルエンザ AH1pdm09型		1						
ムンプス							1	
パラインフルエンザ 3型	2		1					
ヒトメタニューモ	2							
RS	1							
ヒトボカ	1			1				
コクサッキー A6型	1					1		1
ノロ					1			
合計	3 8	1	1	4 1	1 1	1	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

6月の「感染性胃腸炎」は基幹定点から *Salmonella* O4群1件、定点以外の医療機関からは腸管出血性大腸菌5件(O157:H7,VT1&2が3件、O157:H7,VT2、O6:H10,VT1が各1件)でした。

「その他の感染症」は小児科定点から5件、基幹定点から1件、定点以外の医療機関からは27件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(6月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	6月			2017年1月～6月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	1	5	4	23	16
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌			5		3	11
腸管凝集性大腸菌					4	
チフス菌					1	
サルモネラ属菌		1			6	3
不検出	0	0	0	4	9	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	6月			2017年1月～6月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	5	1	27	22	76	117
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			8		
	T4			3		
	T6			3		
	T12			1		
	T B3264	2	1	3	1	
	型別不能			1		
B群溶血性レンサ球菌			1			4
G群溶血性レンサ球菌					2	2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			1			3
バンコマイシン耐性腸球菌						4
レジオネラ属菌			1			4
インフルエンザ菌				1		3
肺炎球菌			1		4	10
結核菌			22		20	66
百日咳菌					2	
緑膿菌					1	
その他			1		44	16
不検出	1	0	0	2	2	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】